



Weekly Market Report

Oct 3, 2022

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

ドル円は底堅い展開を予想。米経済指標次第ではダウンサイドリスクに注意。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は、各国中銀による利上げ加速懸念を背景に日米金利差の拡大からドル買い優勢で推移する展開。週初、英中銀のペイリー総裁や、複数のFRB高官による金融引き締め加速を示唆する発言がドル買い材料となり、ドル円は144円台後半まで上昇してスタート。週半にかけては144円台半ばで揉み合う展開となるも、28日英中銀が市場の安定に向け長期国債の一時買い入れの開始を発表。これに対し、英国及び米国の長期金利は大幅低下で反応し、日米金利差が縮小。ドル円は144円割れまで下落した。週後半は9月の独CPIや米PCEが堅調な伸びを見せたことで、ドル円は再び144円台後半まで戻して越週となった。今週は、米ISM製造業景況指数や米雇用統計といった重要指標が相次いで発表される。依然、FRBによるタカ派観測といったドル買い材料は残るものの、米経済指標のネガティブサプライズには警戒が必要。(市場営業部/加藤)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
10/3(月)	(米国) ISM製造業景況指数	52.5
10/3(月)	(日本) 日銀短観	-
10/4(火)	(豪州) RBA	2.85%
10/6(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	20.5万件
10/7(金)	(米国) 非農業部門雇用者数	25万人

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

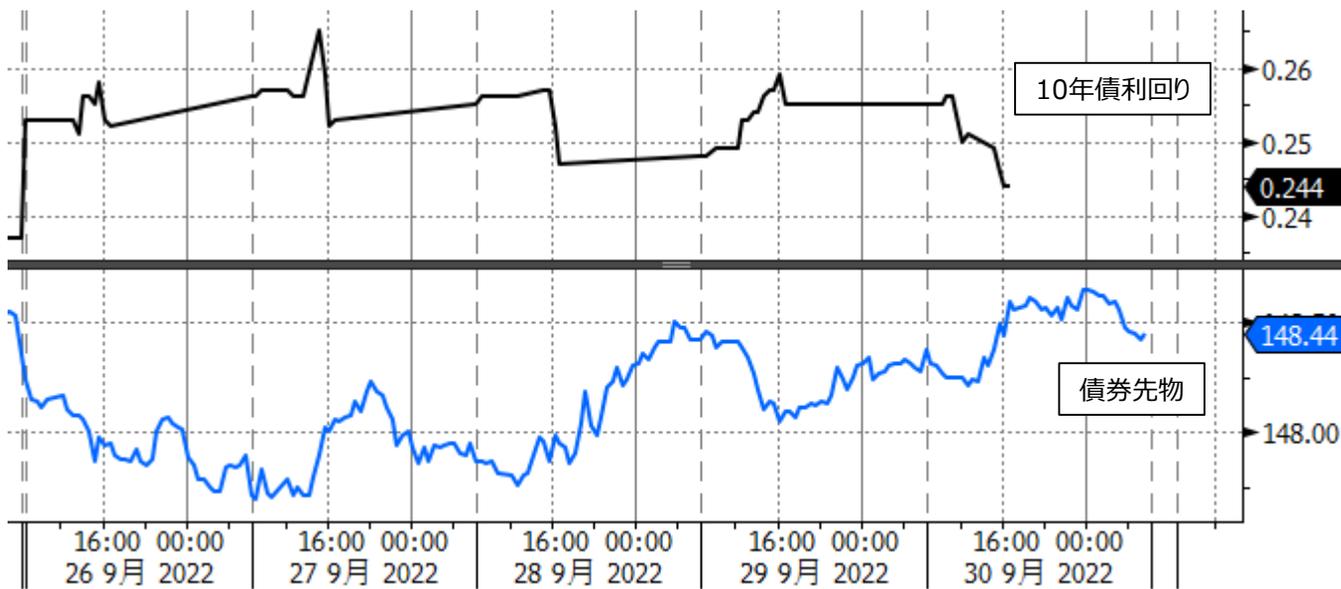
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
鈴木万里子	144.00 - 145.90	為替介入への警戒感から上値は重たいものの、米経済指標(雇用統計・ISM等)が強含めば再び145円をトライか。
嵯峨大輝	144.10 - 146.70	重要経済指標を控える中で、上値を試す展開。一方で、145円を抜けた水準では日銀の為替介入に注意。

2. 円金利相場概況

日銀国債買入計画の変更に伴い、海外金利上昇局面でも超長期ゾーンの上昇余地は限定的か

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

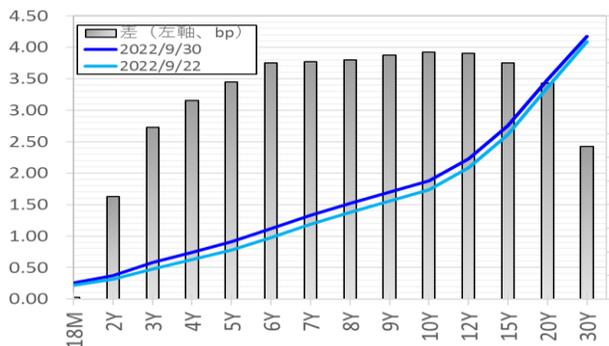


GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30分 Copyright© 2022 Bloomberg Finance L.P. 03-Oct-2022 07:20:46 (出所) Bloomberg

コメント

先週の10年国債金利は概ね0.25-0.26%程度で推移。海外中銀の大幅利上げ継続観測が強まる中、週初から米国ではFRB高官の相次ぐタカ派発言により、27日には米10年金利は約12年ぶりの一時4%台にまで到達した。円債市場も海外金利の上昇圧力が掛かる中、日本時間28日はYCCのサポート下にある10年国債金利は0.26%付近で安定的に推移するものの、超長期ゾーンを中心に大幅に上昇した。しかし、同日欧州時間に英中銀が長期国債の一時買入れ開始に伴い、英国債金利に歯止めが掛かり、米国債金利も連動して大幅に低下した流れを受け、週後半にかけては超長期ゾーンを中心に低下した。30日17時に発表された日銀国債買入計画では、「10年超25年以下」および「25年超」のオファー金額が増えたのはサプライズとなり、今後の海外金利上昇においては、引き続き10年国債金利は0.25%上限付近での推移が見込まれる一方で、超長期ゾーンの金利上昇余地は限定的に留まると考えられる。（市場営業部/福永）

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.230% - 0.250%	今週の円金利は相次ぐ米経済指標の結果に振られる展開を予想。火曜日の10年債入札の結果にも注目。
小野口裕美子	0.21% - 0.25%	イギリス発の世界的混乱も一旦は収束の兆しで円金利も上昇一服となるか。円10年債入札と米雇用統計が注目イベント。

3. 今週のトピックス

2022年1-9月期の主要通貨対ドル騰落率

2022年1-9月期の為替市場はドル高トレンドが継続し、円は20%以上の下落幅に

<2022年1-9月期の主要通貨対ドル騰落率>

2022年1-9月期の主要通貨対ドル騰落率は豪ドル-11.9%、ユーロ-13.8%、英ポンド-17.5%、円-20.5%【図表1】となった。米国におけるインフレ高進を受けてFRBが利上げペースを加速させていることから、ドル買い地合いが継続。日本以外の主要国は金融引き締め姿勢を強めているため、各国の10年国債金利は大幅に上昇しているものの【図表2】、欧州や資源国では景気後退懸念も強く、各国通貨はドルに対して劣後する展開となっている。特に英国ではトラス新政権の財政支援策による財政の悪化懸念から英国金利が急上昇し、英国中銀は超長期国債を一時的に買い入れる対応策を発表したが、ポンドは一時1985年の安値を割り込む水準まで急落している。

主要国中銀の金融政策については、FRBは9月に3会合連続となる75bpの利上げを実施し、現在の政策金利は3.00-3.25%。ドットチャートでは2022年末の政策金利見通しが4.4%、2023年末は4.6%に引き上げられ、インフレの抑制に向けて強い引き締め姿勢が示されている。ECBも9月の理事会でユーロ発足以来となる75bpの利上げを行い、預金ファシリティ金利を0.75%とした。ラガルド総裁は現在の政策金利はターミナルレートからは程遠いとして、データ次第ではあるものの今後3-4回の利上げを行う可能性があると発言、市場では来年9月までに3.0%程度までの利上げが織り込まれている。BOE（イギリス中銀）も7会合連続の利上げ実施で、現在の政策金利は2.25%。ただし、利上げによる景気の悪化によって2023年はマイナス成長となる見通しだ。また、RBA（オーストラリア中銀）についても、5月から利上げを開始して現在の政策金利は2.35%となっているが、ロウ総裁は年末にかけてインフレが抑制されてくるとの見通しのもと、利上げペースの鈍化について示唆している。一方、日銀については日本の物価上昇は一時的であるとして、金融緩和姿勢を継続。マイナスの政策金利採用国は世界で日本だけとなり、円安進行の大きな背景となっている。

<シカゴIMM投機筋ポジション>

シカゴIMMの投機筋ポジション【図表3】では、下落のスピードが速かったユーロに買戻しが入り、ネットロングとなっているが、その他の主要通貨はネットショートが継続。円についても再びネットショートが拡大してきている状況だ。

<当面の注目材料>

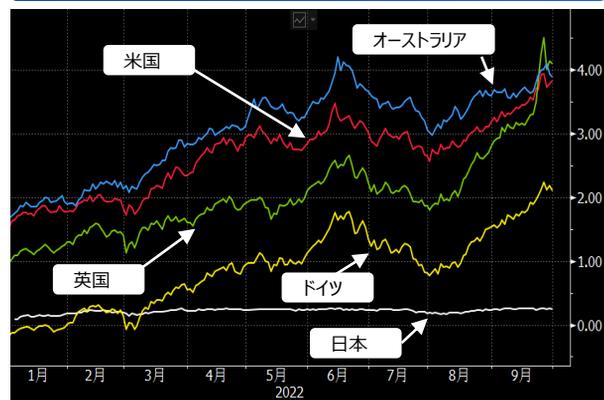
当面の注目材料としては11月の米国中間選挙が挙げられる。米国内でのガソリン価格の下落やインフレ抑制法の成立などでバイデン大統領の支持率は回復傾向となっており、議会の方も上院で民主党が過半数を維持する可能性も出てきた。上下両院とも共和党が過半数を獲得した場合には政権のレームダック化が進み、効果的な経済政策を実施できなくなるおそれがあるため、景気後退懸念から米金利の低下、ドル売りの材料となってきそうだ。（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃）

【図表1】 1-9月期 主要通貨対ドル騰落率(%)



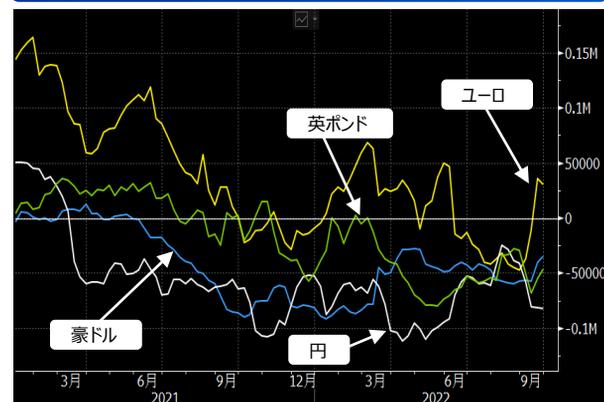
(出所:Bloomberg)

【図表2】 各国10年国債金利の推移(%)



(出所:Bloomberg)

【図表3】 シカゴIMM投機筋ネットポジション(枚)



(出所:Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会